

混沌とした中から

マインドマップ (3)

では、実際にマインドマップの使い方（?作り方）です。マインドマップには次のような12の基本ルールがあります。

- ・無地の紙を使う
- ・横長で使う
- ・テーマはイメージで描く（枠なし、縦横3～5×3～5、3色以上）
- ・1ブランチ=1ワード
（ブランチ上にワードを書く、ブランチとワードの長さをそろえる）
- ・ワードは単語で書く
- ・ブランチは曲線で
（メインブランチはテーマイメージに繋げる、分岐は45°程度の角度で）
- ・強調する
- ・関連付ける
- ・独自のスタイルで
- ・創造的に
- ・楽しむ

このルールは発想に対して制限しようとするものではなく、発想をより刺激し情報を整理しようとするものです。脳に負担をかけない「ブレン・フレンドリー」なものにして「美しく描く」ことによって頭の中に残るものにしようとするためのルールです。発想にも情報整理にも絵は重要な要素だとするもので、楽しみながらするものというところからきています。

まず中央にテーマとなるものをテーマイメージとして絵で描きます。必ず「絵」です。言葉を加えてもいいですが「一言」だけにし、くどくど説明することは避けます。そのテーマイメージから4～5本の太い枝を書きます。これがメインブランチです。メインブランチはテーマイメージから発想した単語に対応して描きます。せいぜい4～5本程度にします。あれやこれや考えていると10や20になってしまうかもしれません。ただ人間は一度に7つ以上のものを覚えてられないといわれていますし、発想には4～5程度が適当とされています。また、なるべくスピーディに描きます。悩まず思い浮かんだものをそのまま描く、それがマインドマップの発想の仕方です。

次に描くのがサブブランチです。メインブランチから発想したものを思いつままま枝分かれさせていきます。サブブランチからさらに枝分かれさせたサブ・サブ・ブランチと発想を広げていけば頭の中にあっという間にいろいろなものが紙上に表現されていくこととなります。ここで初めの頃はサブブランチ上にどうしても説明的な文章を書きたくなるかもしれませんが。文章で書くといいように見えるのですが、パッと見てわからない（文章を読まなければならなくなるから）ものになります。文章によって左脳の機能しか使われないため発想のパターンが偏ってしまうこととなります。そこから得られるであろうアイデアの可能性も狭くなってしまいます。発想する際のヒントとなる考え方に「階層化とカテゴライズ」というものがあります。つまり発想できるキーワードのカテゴリを段階的に小さくしていくという方法で、メインブランチをテーマイメージのすぐそばのものに限定してサブブランチへと段階を踏んで範囲を広げていこうとするものです。（次回へ続く）

(今週の情報誌から)

○日経エレクトロニクス 7月14日号

解説 E e e PCの「次」を獲る

→E e e PCの登場から始まった小型低価格パソコンの市場。今後はどうなるか。CPUはインテルが「A t o m」を出荷するがN V I D I Aは「T e g r a」を出荷し対抗する。OSはL i n u xに注目が集まり、5秒で使えるE e e B o xが出荷されるなど各社が参入している。

○日経パソコン 7月14日号

特集 光ディスクの正しい焼き方

→光ディスクにはCD、DVDとB l u e r a yがある。その中にもいろいろな種類があり気をつけないと使えなかったり、書き込んだものが他で読めなかったりする。ディスクの仕組みから正しい焼き方までの特集。

特集 ブロードバンド最新事情

→ブロードバンドにもいろいろある。いざ使おうとしてもどれがいいのか迷ってしまう。光がいいのか、C A T Vがいいのか、A D S Lで十分なのか、また携帯の高速データ通信もある。